

教会は神の御住まい

2023年7月30日

エペソ人への手紙 2章11節～22節

序：神の選び + 御子の恵み + 信仰に導く聖霊 = 罪人の救い (1章)

BEFORE と AFTER (死んでいた者 ⇒ 生きる者)
人間の行いによらない
神の恵みと信仰によって

良い行いは救いの条件ではなく、救いの結果

I. 教会はユダヤ人信者と異邦人信者の融合共同統一体

(1) 異邦人の聖徒のBEFORE

- ① 肉において異邦人 (無割礼) by ユダヤ人 (割礼)
神の契約の中にいない (全員) 真・偽
接ぎ木
- ② キリストから離れていた
神々はあったが、キリストは不在 (仲保者・贖い主不在) = 審判必定
- ③ イスラエルの国から除外されていた
特権、祝福
- ④ 約束の契約については他国人
メシヤの来臨の約束
- ⑤ 世にあって望みがない、霊的暗黒
刹那的、即物的生き方 (食べて飲んで楽しめ！)
- ⑥ 世にあって神もない
偽の神々、偶像を拝んだり頼っても空しい (実在しない、救う力がない)

(2) 異邦人聖徒のAFTER

- 聖なる零的な国の民とされた
メシヤの祝福の中に招き入れられた
- ① イエス・キリストの中にある者とされた (異邦人とユダヤ人がともに)
- ② キリストの血によって (御子のきよいいのちという莫大で高価な代価)

(3) 異邦人の救い・神に近い者とされた理由・目的

- ① 異邦人とユダヤ人の神殿内の隔ての壁／心の中のそびえたつ壁を壊す
キリストこそ平和 (ユダヤ人 VS 異邦人、自由人 VS 奴隷、男性と女性)

敵意：律法を知らず、守り行わない
軽蔑：無割礼

キリストは律法をすべて守り行い、律法を廃棄＝無効とした (破棄ではない)

- ② ユダヤ人と異邦人の和解
まず、それぞれが神と和合 (回復)、次に人と人が敵意を解かれて和解
敵意は、十字架によって葬り去られた
主の屈辱・敗北 ⇒ 人間に祝福

③キリストが預言者や使徒たちを通して、神との平和、隣人との平和を宣べる
遠くにいた異邦人にも
近くにいたユダヤ人にも

④両者とも、キリストによって
一つの御霊において
父のみもと に近づくことができる

⑤異邦人の聖徒たちはもはや遠くにいる他国人、寄留者ではない
ユダヤ人聖徒たちと同じ神の国に属する
神の家族である
天の父、神の子ら

II. 聖なる公同教会を神殿（神の御住まい）建物に例える

(1)要の石（礎石）：キリスト・イエス

(2)土台：（新約の）預言者と使徒 福音を宣べ伝えた
ペテロが代表でした信仰告白
マタイ 16・16～18

(3)建物の石：個々の聖徒たち

まだ、完成していない 建造の最中

①教会は神の神殿 コリント I 3・16～17
神の御霊が内住
聖なるもの

②聖徒たちのからだは神から受けた聖霊の宮 同 6・19
御霊の内住

18節、22節 三位一体の神のお働き・御業 = 教会建造

III. 結び

(1)教会は三位一体の神によって生まれ、育まれ、恵みと力を注がれて、携挙の時
まで拡大、前進して、完成にいたる

(2)教会は信仰による神の家族である（血縁や民族、性別、身分、能力によらない）
父を神に持つ神の子どもたち、互いは兄弟姉妹

(3)教会は神の設計図をもとに、建て上げられる（偶然の産物ではない）

(4)救われた者同志であっても、敵意、妬み、悪意などから生じる罪によって互いを
教会を損なう言動に発展することがある
その時の解決は人間的な方法によらず、平和であるイエス・キリストによらな
ければならない イエス・キリストは一人一人信じる者を救うために来られ、死な
れ、よみがえって勝利されたからである

(5)特に何事もない時にこそ、自分自身のBEFOREとAFTERを思いみて、悔い改めと
感謝をささげてはどうだろうか？（自分が今どういう者なのかを確認）

(6)福音は神との和解、隣人との和解、他の被造物との和合をもたらしことのできる
神の賜物である ただでいただいたのだから、ただでほかの人たちに分かとう